

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム金刀比羅		
所在地 (電話番号)	北九州市戸畑区金比羅町4番29号 (電話) 093 - 873 - 8731		
評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年6月15日	評価確定日	7月3日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年2月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤	20人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 9階建ての2～4階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000円)	有りの場合 償却の有無	入居年数に応じて、退去時に基本修繕費・償却修繕積立金を差し引き返済する	
食材料費	朝食	400円	昼食	500円
	夕食	600円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年4月1日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	9名	要介護2	8名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	80歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金刀比羅診療所
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム金刀比羅は、金比羅池公園が目の前に広がる緑豊かな自然環境を有している。その立地条件を活かし、散歩を日課に取り入れ、入居者の機能維持を図っている。また、近接して北九州中央公園・いとづの森公園があり、うるおいとゆとりの環境に恵まれている。事業主体は医療法人医和基会でグループホームに隣接して金刀比羅診療所があり、シニアハウス・ケアハウスが併設され、健康や介護に対する不安に対して、24時間の支援体制を整備し、スケール・メリットを活かした支援を行っている。「あんしん・ふれあい・ゆとり」を運営理念とし、職員のチームワークによるサポート体制が充実し、ホームはなごやかな雰囲気にも包まれている。今後は、さらに地域との連携が図られ、住み慣れた地域で、いつまでも暮らし続けられるシステムづくりに期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査では、家族の希望により、車椅子利用の入居者に安全ベルトを使用することがあり、身体拘束の問題が指摘されたが、改善項目として取り組み、身体拘束防止委員会を立ち上げ、記録の整備をはじめ、職員一丸となって身体拘束の問題意識を高め取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	入居者一人ひとりの個別ケアの充実を今年度の課題として掲げ取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	日常のケアサービスの改善や当法人の医療との連携・地域との連携による防火訓練など、話し合いや情報発信・交流の場として活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ご家族の意見や苦情は、各ユニットの入り口にユニットごとの工夫を凝らした意見箱を設置し、ご家族が気軽に書いていただけるようにしている。また、面会時などに職員に気軽に意見や苦情・不安を話していただけるような関係づくりに努めている。また、ご家族から意見や苦情があった際には、時間をおかず、早急にその問題の対応に当たり、不安などがないように支援している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的には散歩の際、地域の方々といさづを交わし、顔なじみの関係づくりを図っている。屋外のレクリエーションの際には、地域のボランティアの協力を得られ実施している。また、一枝公民館の作品展に入居者の作品を出展するなど地域との連携を高める活動を行っている。今後は、ホームの階上に位置するシニアハウスも地域として連携を深める働きかけが必要である。また、これまでの認知症ケアの実績を活かし、地域における認知症ケアの中核機能の役割を果たし、地域に伝えていくことが求められる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念として「あんしん ふれあい ゆとり」を掲げ、医療との連携による「あんしん」、同法人が運営する在宅ケアを推進する機能との連携による「ふれあい」、恵まれた豊かな自然環境を活かした「ゆとり」ある暮らしの実現を目指して運営を行っている。		制度改正により、地域との関係性が重視されるようになり、これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容が求められ、地域密着型の考え方を反映されることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットに理念を掲示すると共に、職員は名札の裏に理念を明記し、日々意識を高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には3口加入し、自治会活動の協力を行っている。		今後はさらに地域の一員として地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んでいくことが望まれる。また、ホームの階上のシニアハウスも地域として連携を深める働きかけが必要である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に、外部評価の意義やねらいについて理解し、外部評価の改善項目は、その都度検討し、改善に向けた取り組みを行っている。また、自己評価も管理者・職員で作成会議を開き、サービスやケアの振り返りを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を家族の方の意見を率直に伺える機会と捉え、輪番制で3家族ずつ参加していただくようにしている。家族が地域包括支援センターの職員に相談するなど、情報交換や話し合いの場となっており、多様な意見などを吸い上げ、サービス向上につないでいく努力をしている。		今年度は、運営推進会議を定期的開催できるように取り組んでいる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	戸畑区の地域ケア会議に定期的に参加し、行政担当者と頻りに情報交換を行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	家族や入居者に入居時に権利擁護の説明を行っている。権利擁護の説明は、リーダー格以上の職員は対応できるようにしているが、全職員が理解し説明ができる状況にはない。		全職員が権利擁護に対して、必要な時に支援できるように理解を高める取り組みが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会を年に1回開催し、介護保険制度や事故の報告、年間行事の連絡などを行っている。ご家族の面会が多いため、面会時に入居者の状態や様子を報告している。面会に来れないご家族には、電話で日々の様子を連絡するようにしている。また、毎月請求書を送る際に各ユニットの担当者が、写真を送るなど連絡・報告を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットごとに工夫を凝らした意見箱を設置し、意見や苦情を吸い上げる取り組みを行っている。また、ご家族が気軽に意見や苦情を言っていただけるような関係づくりに努め、その意見や苦情に対しては、ご家族の不安を考慮し、迅速に対応するようにし、運営に活かすように取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営方針として、職員はどのユニットでも対応できるように人事の異動を行うことがある。緊急時のフォロー体制として、どの職員でも対応できることを目指している。異動によるダメージは管理者がサポートし、ダメージの軽減を図るように努めている。		職員の異動はご家族にとって不安が伴う場合が多く、職員の異動に関する方針を話す機会を設け、理解を高めることが求められる。
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の年齢は20歳代～60歳代と幅広く、年齢による採用の排除はない。また性別による排除もない。職員が生きがいを持って働けるように、介護福祉士の資格取得のための勉強会を開催するなど、研修受講を含め積極的に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	身体拘束をテーマに人権問題に取り組んでおり、定期的に勉強会や意見交換を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	社会福祉協議会が主催する年間の研修計画をベースに職員の希望に応じて研修が受講できるように支援している。また、定期的に介護福祉士の資格取得のための勉強会を開催し、資格取得のためのサポート体制がある。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	戸畑区の高齢者ケアに関わる事業者が集まる地域ケア研究会やグループホーム協議会に参加しており、ネットワークの形成を図る取り組みを積極的に行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	ご家族の協力を受けながら、状態に応じてデイサービスやショートステイの利用などの対応を行い、徐々に馴染めるように対応している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の趣味や特技を活かし、生き生きとした暮らしを実現するために6つのクラブ(買い物クラブ・散歩クラブ・カラオケクラブ・園芸クラブ・料理クラブ・手芸クラブ)を発足し、クラブ活動を楽しんでいただけるように支援している。また、入居者の短歌・俳句などの作品をユニットの壁に掲示している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を採用し、入居者の希望や意向を記録している。日々の思いや意向は、気づきのノートに入居者の言葉や行動を記録し把握できるように努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	事業主体が医療法人のため、医療面のバックアップ体制が確立されているが、介護計画に医療情報が少なく、入居者の全体像が介護計画ではわかりにくい。関係者間では医療情報の共有化により、介護計画が立てられているが、医療情報の充実が求められる。		医療情報においては、症状と薬の情報が求められ、薬の副作用なども把握しておく必要がある。医療法人のため、バックアップ体制が確立され、安心感は大きいですが、医療情報が確認できる書類の整備が求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	基本的に3ヶ月ごとの介護計画の見直しを行っている。急な状態変化の際には、その都度見直しを図っている。		より実現できそうな短期目標を設定し、支援経過を確認・検証することが求められる。例として花を育てる事が好きな人には、花の水やりを支援するなど取り組まれているが、個別援助に向けた努力を期待したい。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	医療保険により、認知症対応型通所介護(デイサービス)を利用し、機能維持を図るなど、柔軟な支援を行っている。また、同法人で行う金比羅合同運動会や納涼祭には、入居者が参加し交流やふれあいを楽しむ機会を提供している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者の希望を重視し、かかりつけ医の受診を支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	医療法人が実施主体であり、同法人の診療所が隣接していることから、医療との連携があり、ターミナルケアの実施に向けて、合意形成を図っていく段階にある。		戸畑区の高齢者ケアの中核拠点として、医療のバックアップ体制が確立されている点でターミナルケアの実施が期待される。今後は、関係者間の合意形成を含め、段階的に進めていくことが求められる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	申し送りノート・スタッフノート・業務日誌・個別ファイル・バイタルチェックなど、入居者の状態の記録があり、決められた場所での保管を行っている。声かけは、プライバシーに配慮し、入居者一人ひとりに合った対応を心がけている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の状態変化に目を配り、入居者が満足できるように支援している。無理じいせず、ご自身のペースに合わせて臨機応変に入居者の意向を尊重し対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	日々の食事の盛りつけや配膳は、入居者と職員が一緒になって行っており、コミュニケーションを取る機会となっている。毎月2回の食事作りはレクリエーションとし、入居者を主体とし、準備の段階から行い好評を得ている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	曜日・時間はある程度決まっているが、無理強いすることなく、ゆっくりと入浴できている。		入浴を夜間帯に希望される方は、対応できるように、職員配置を工夫していきたいと考えている。
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	食事の盛りつけや配膳・後片づけ・お茶出し・お花の水やり・洗濯物たたみ・掃除など、入居者の能力や役割を活かし支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎日、散歩は目の前の金比羅公園をはじめ、日課として楽しんでいただくようにしている。外食・お花見・ドライブなど、できるだけ外出する機会をつくっている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	建物の構造上、1階の玄関は鍵をかけていないが、2階・3階・4階の各ユニットの入り口のエレベーターの鍵は空間的に死角となっており、入居者の安全性を確保するため、ご家族の了解を得て鍵をかけている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	地域との防災協定を締結し、非常時には、地域の方々が協力していただける体制を構築している。年間事業計画において年2回、昼間と夜間を想定し消防訓練を実施している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	同法人に所属する管理栄養士の指導のもと、栄養摂取量・バランスに配慮した献立となっており、糖尿病の方には、ご飯やおやつを減らしている。水分は一人ひとりの好みに対応し、摂取量を把握している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は、リビングやソファが置かれ、ゆったりと過ごせる空間となっている。多目的室があり、「公民館」と表示し、なじみの家具類が置かれ、親しみのある活動空間となっている。共用空間は3ユニット共に金比羅公園に面し、緑を楽しめるように窓が広く、明るい。換気も常時行われ、加湿器を置くなど居心地の良い空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者は、自由になじみの家具類や使い慣れた物を持ち込まれ、居心地の良い空間となっている。居室の入り口は、入居者ごとに暖簾を掛けたり、工夫された表札を掛けたり、個別に工夫されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			